



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



Vol.34
2023年春号

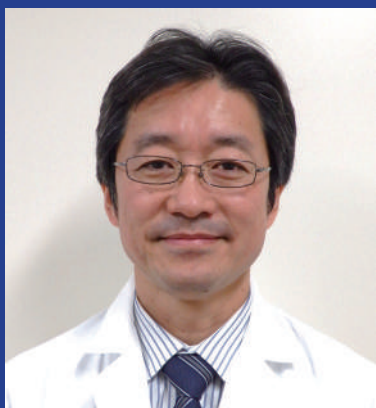
News
Letter



おおきに健康

歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌



副病院長 山城 隆

皆様、お元気でしょうか？新型コロナウイルス感染症は、発生から3年が経ち、ようやく落ち着きを見せています。この感染症の5類への移行で、大きな節目を迎えたと感じています。この3年間、患者の皆様には大変なご迷惑、ご不自由、ご負担をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。幸い、歯学部附属病院は、様々な感染対策を行った結果、この3年間、診療に関わる感染の伝播や、外来診療や入院治療においてクラスターの発生を一例も出すことがありませんでした。患者の皆様には、受付の問診表の記載をはじめ、様々なご負担と診療に関わるお願いをしており、その間、大変なご不自由をおかけしておりましたが、その甲斐もありまして、安全で安心な歯科治療をご提供できたと信じております。現在、病院では、「アフターコロナ」の感染対策を今一度、検討しているところです。今後とも、安全な歯科治療を提供してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

内面

- 特集 1.
新しく本院に導入された
画像診断機器の紹介
- 特集 2.
デジタル化がすすむ
歯科インプラント治療

お口の相談コーナー
お口のマメ知識

裏面

- 2023年1～3月の統計情報
- 病院概要



特集1 新しく本院に導入された画像診断機器の紹介

放射線科 教授 村上 秀明

本年3月に放射線科の画像診断機器が一新され、4月からいよいよ本格的に稼働することとなりました。

MRIと呼ばれる装置を用いた検査では、磁場と電波を用いてからだの断面画像が得られます。磁場の強度が高ければ高いほど細かい画像が得られ、電波が正確であるほど歪みのない画像を得ることができます。いまから30年以上前のことですが、世界の歯学部附属病院では初めて当院放射線科にMRIが導入されました。一号機の磁場の強度は0.5テスラでした。20年程前に機器が更新され、当時の世界最新鋭の装置で磁場強度は1.5テスラでした。今回導入した新しい装置は3.0テスラと2倍の磁場強度があります。さらに、電波を受信するアンテナもチャンネル数が多く正確な診断ができるようになっております。X線被曝のないMRI検査が、歯科領域でますます利用されることを期待しております。

CTはX線をからだのあちこちから照射し断面画像を得ます。非常に短い時間で撮影できること、骨や歯に特に向いていることが特徴です。このCTには、全身をスキャンすることのできるMDCT装置と、歯科に特化したCBCT装置があります。このたび、MDCT装置を最新鋭の機器に置き換え、CBCT装置は二

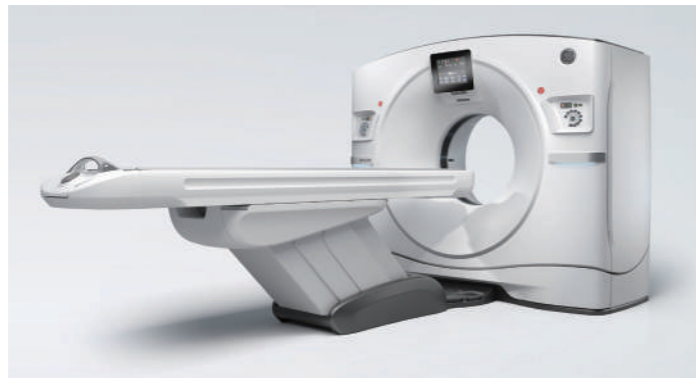
ズが多いため1台追加致しました。MDCTではCT値と呼ばれるX線の透過度の指標を得ることができ、そのCT値の大小が画像の白黒になります。今回導入する装置では、CT値のみならず原子番号や密度まで測定することが可能で、これまでよりも進んだ情報を得ることができるようになります。また、検査を受けられる患者さんの数が最も多いCBCTでは、2台体制となることから待ち時間を短くすることができるようになっております。

最後に、超音波検査の装置についてです。超音波検査は、ヒトの耳に聞こえないくらい高い周波数の音波(超音波)をからだに当て、跳ね返ってきた超音波を解析することから、断層画像を得たりや液体の動きを診断したりすることができます。超音波を当てたり聴いたりする装置をプローブと呼んでいますが、今回導入する装置には多種類のプローブが備えられ、からだのあちこちに対応することが可能となります。さらに、エラストグラフィという「からだの硬さ」を診断する機能も備えられ、頭頸部疾患に上手く応用されることが期待されています。

新しい装置を用いて、安全で正確な診断を進めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



MRI



MDCT



超音波検査装置

特集2 デジタル化がすすむ歯科インプラント治療

口腔インプラントセンター 助教 中野 環

大阪大学歯学部附属病院口腔インプラントセンターは今年で設立5年目となりました。

当院では90年代初めより補綴(ほてつ)科を中心としてインプラント治療に取り組んでまいりました。そして、2010年4月に病院3階に4つの外来手術室をもつ近未来歯科医療センターが、2018年4月には近未来歯科医療センターに隣接した場所にインプラント治療に特化した口腔インプラントセンターが設立されました。これにより、高度な清潔環境のもと手術用の顕微鏡や超音波切削器具、レーザー装置など最新の設備を備えた近未来歯科医療センターで、安全かつ安心にインプラント体の埋め込み手術やその関連手術を受けていただき、インプラント体埋め込み前の治療や検査、埋め込まれたインプラント体に装着する仮歯や最終的な歯の型取りや製作、そしてメンテナンスも含めた一連の治療は、口腔インプラントセンターにおいて提供することができるようになりました。

当院は、日本口腔インプラント学会認定の研修施設であり、年間約150~200件のインプラント体埋め込み手術、および約100件の関連手術(骨の造成手術や歯茎の移植手術など)を行っています。

インプラント治療は歯科治療のなかでも早くからデジタル技術が取り入れられている分野です。写真1は下あごの奥歯が2歯欠損している状態です。PC上でインプラント体の埋め込み位置をシミュレーションし、その位置に埋め込みができる装置を3Dプリンターで製作し手術に用いることで、術前に予定した位置に正確にインプラント体を埋め込むことが可能です(ガイド手術)。写真2は、埋め込まれたインプラント体を口腔内スキャナー(カメラ)を用いてスキャン(型取り)し、PC上で最終的な歯の形態をデザインし、セラミックのブロックから削り出し(CAD/CAM)お口の中に装着した状態です。このように術前の診査診断から最終的な歯の製作に至るまで、ほぼ全ての工程においてデジタル技術が用いられています。また近年では、手術中にGPSのように骨の中のドリルの位置をリアルタイムに追跡することで、より精度と正確性が向上するダイナミック3Dナビゲーションというシステムを用いたインプラント体の埋め込み手術も行っています(写真3)。

これからもインプラント治療を通じて患者様のQOLの向上を目指し、口の健康に寄与していきたいと考えております。インプラント治療に関心のある方は、当院担当医にお尋ねください。

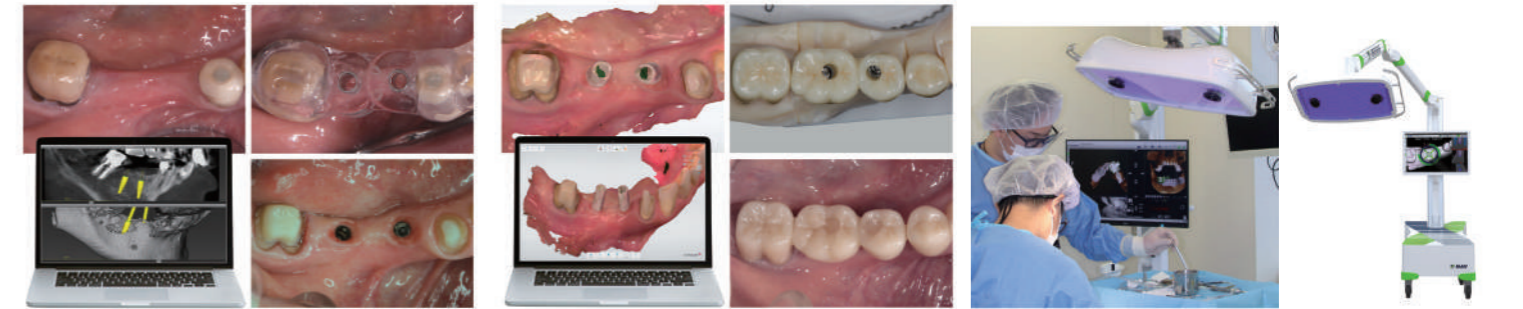


写真1

写真2

写真3

インプラント手術ナビゲーションシステム

「ノーベル賞受賞者からの恩恵」

お口の相談コーナー



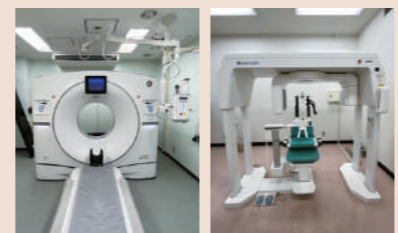
1895年11月8日(金曜日)の夕方にドイツのレントゲン博士は陰極線の実験中、「光るもの」を発見しエックス線(レントゲン)と名付けられました。当時の医学界に驚きをもたらしたことは想像以上だと思います。ドイツではエックス線の発表の翌年に歯の撮影を行ったと言われています。その約100年後、1972年にイギリスの技術者ハウズフィールドが数年の研究を経て、世にCT装置を送り出しました。CTは人体を輪切りにして病気の位置が特定出来るだけでなく、単純エックス線では歯や顎の骨などの硬い組織のみでしたが、CTを用いると舌などの軟組織の観察も可能となりま

した。これも医学界に大きな貢献をもたらしました。レントゲンとハウズフィールドは、その功績によりノーベル賞を受賞しています。その数十年後、歯は人体の他の部位と比べて小さい組織であり、診断にはより細かい画像が必要とされ歯科用CTが開発されました。医科用CTと比べて、歯をより細かく観察できるようになりました。先日、新聞のコラムで次の内容を目にしました。「医師アントワーヌいわく、医者が病気を前にしたときに大切なのは新鮮な目で見ることだ。症例固有の課題が知識や書物だけで解決できることはめったにない。あらゆる病気は前例とは異なる

放射線科 助教 内山 百夏

特殊な症例として現れてくる。常に新たに治療を工夫しなければならない。」フランスの作家マルタン・デュ・ガールがノーベル賞受賞作「チポ一家の人々」の中で、主人公の一人の医師に語らせたセリフです。

私たちは、最新の技術を使い、個々の症例に向き合わなければなりません。



医科用CT

歯科用CT

お口のマメ知識



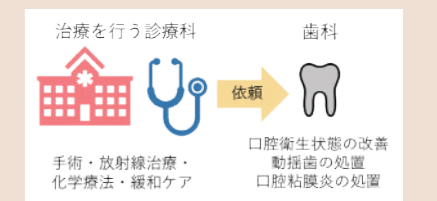
『周術期等口腔機能管理』って知っていますか？

口腔外科2(修復系) 助教 濱田 正和

お医者さんで全身麻酔の手術前に歯医者さんに行くと言われたことはないですか?今から10年ほど前がん等の治療前に歯医者さんを受診することが重要とされ、保険診療で行われるようになりました。『周術期等口腔機能管理』とは、がん等に係る手術、放射線治療、化学療法もしくは緩和ケアを実施する医療機関が歯科に依頼し、出来るだけ口腔内細菌による合併症(手術部位感染や病巣感染)や誤嚥性肺炎等のトラブルなしに円滑に治療するために行います。ここで言うがん等とは当院で行う治療だけでなく、他の病院での治療(肺がんや胃がんなど)も含まれます。

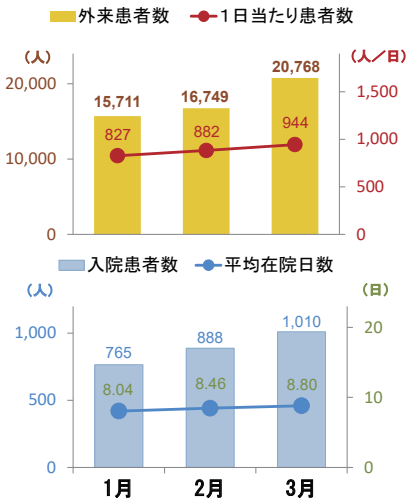
お医者さんで手術を行う前に口の中を綺麗にすることにより、術後の肺炎の予防や入院日数の短縮につながると言われています。全身麻酔の際には、挿管チューブを口から入れることが多いです。その際、動いている歯があると脱落することがあります。そのため、手術前に動揺歯の固定や、マウスピースを作成することにより、手術の時に歯が抜けるリスクを減らします。さらに化学療法(抗がん剤治療)では、口内炎や粘膜炎が出来る場合があります。治療前や治療中に歯科医師が口腔内を綺麗にすることにより、口内炎や粘膜炎がなるべく出来なくする、もしくは出来ても重症に

ならないことを目的に行います。歯科のある病院では、ご自身で行うのが難しい場合でも、歯科医師や歯科衛生士により専門的に口腔ケアをしてもらえます。以上のように周術期等口腔機能管理は重要です。しかしながら、がん等の治療直前の歯科への受診だけでなく、普段から歯の定期健診を行い、健康な口腔状態を保つことを心掛けて下さい。

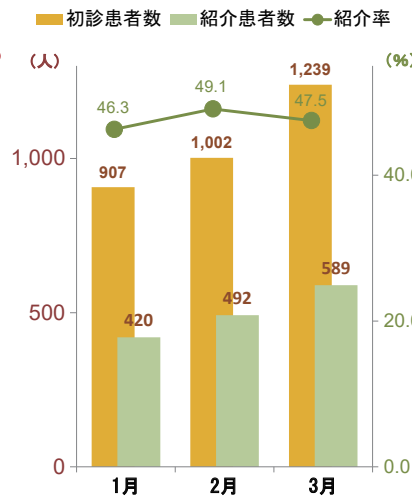


1月～3月患者数等統計

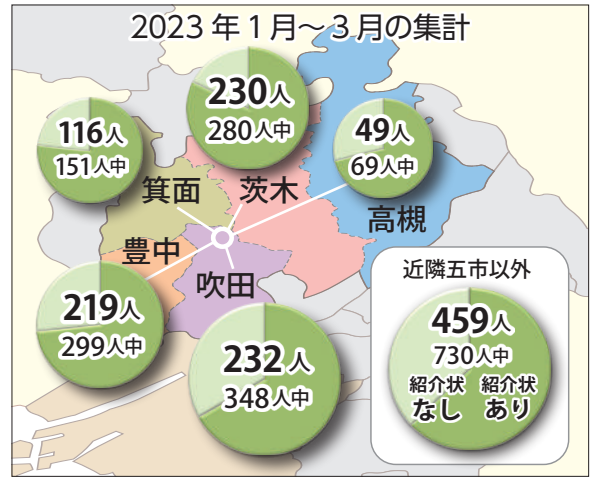
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率

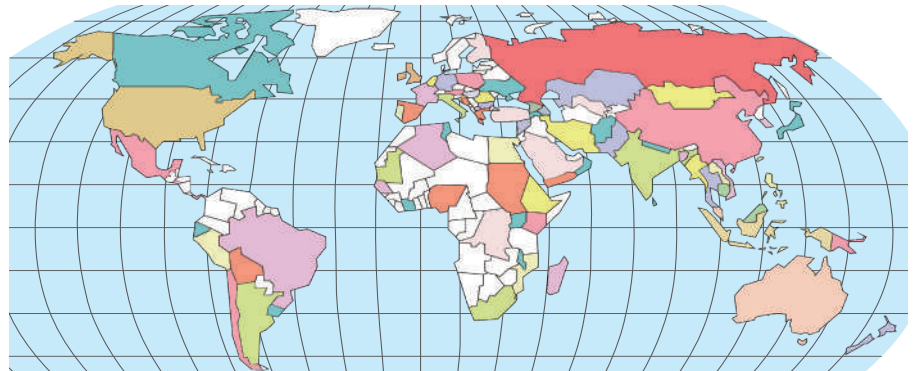
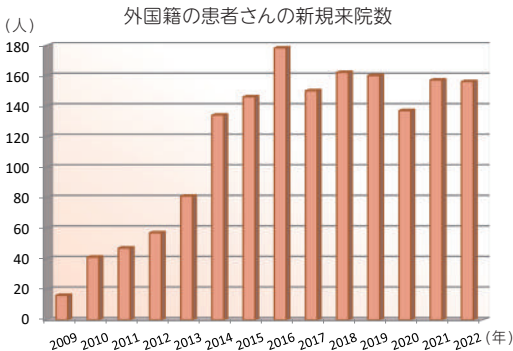


近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



外国籍の患者さんの来院数 (外来) と主な国籍の分布図

【主な国名】…中華人民共和国、韓国、インドネシア、ブラジル、フィリピン、ベトナム、ニュージーランド、バングラデシュ、アメリカ合衆国、タイ等



◆抽出条件◆ 2009年度から2023年3月31日までに大阪大学歯学部附属病院を受診した外国籍の外来患者さんの人数を集計しました。

病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等



電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話（06-6879-2848）のうえ、お越しく下さい。

入院患者様へのご面会は新型コロナウイルス感染症対策の観点から当分の間、原則禁止とさせていただきます。

病院へのアクセス



歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しく下さい。

看護師・歯科衛生士募集中！

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで